

毎朝かける「おはよう」の声

「おはようございます」「おはようございます」
 「気が付いて、車来てる」
 朝日が降り注ぐ街角に、一際元気な声が響き渡ります。ここは上ヶ原小学校上ヶ原二番町の通学路。近くの聖和大学の学生が児童の登校時の立ち番ボランティアを始め、もう三年目になります。

きつかけは、二〇〇一年六月の大教大付属池田小の児童殺傷事件でした。同大の藤木大三助教授(四)が、受け持ちのゼミの学生に「二度と同じことが起きないように、自分たちができることを考えよう」と呼び掛け、その年の七月から始まりました。

以来、大学のテスト期間中などを除いて、ほとんど毎日通学路で児童の登校を見守り続けています。現在は、藤木助教授のクラスの学生のほか、タッチフットボール部やチャリダー部も参加して、約五十人が交代で活動しています。

この日は交通量が多い六カ所の交差点で、午前七時半から立ち番をしました。「今日は荷物大きいな 四年生の男子児童(〇)は



学生ら通学路立ち番

「お兄さんやお姉さんがいると、いつもより気を付けようと思えます」と笑顔で話します。同大二年の町田知子さん(〇)も、いつも子どもたちの笑顔を見て元気をもらっています。安全に学校に通ってもらえるよう、私

「お兄さんやお姉さんがいると、いつもより気を付けようと思えます」と笑顔で話します。同大二年の町田知子さん(〇)も、いつも子どもたちの笑顔を見て元気をもらっています。安全に学校に通ってもらえるよう、私

「お兄さんやお姉さんがいると、いつもより気を付けようと思えます」と笑顔で話します。同大二年の町田知子さん(〇)も、いつも子どもたちの笑顔を見て元気をもらっています。安全に学校に通ってもらえるよう、私



立ち番ボランティアの学生があいさつすると、児童からも「おはようございます」と大きな声が=西宮市上甲東園5

「連携」

「不審な人に声を掛けられたり、危険な目に遭ったりしたら、黄色いステッカーのある家に駆け込むんですよ」

市立鳴尾北小学校を訪れた甲子園署員が、グラウンドに集まった四年生の児童百九十五人を見渡し、優しく呼び掛けます。同小でこのほど、初めての「110番ステーション」

ウオークラリーが行われました。毎日通る道のどこかに「110番の家があるのかを、普段から確認しておく」という取り組みです。

「110番ステーション」は、不審者による連れ去りなどの犯罪から児童を守り、警察へ通報する役割を担う、地域の一般家庭や店舗などです。城崎郡香住町の警察署が一九九七年、地域ぐる

110番ステーション

みで子どもたちを犯罪から守ろうと始めたのをきっかけに、県内全域に導入されました。玄関先などに張ってある黄色いステッカーが目印です。

児童は四、五人の班に分かれ、校区内のステーションが記された地図を手に、寒さをものともせず出発しました。「コン」や文具店、民家など六つのステーションを探して、学校周辺を行ったり来たりしました。

「あった!」目印のステッカーを見つけると、子どもたちは走り出します。ステーションに指定されている喫茶店から出てきた女性に、「おはようございます」

大きな声であいさつすると、女性は「何かあったらいつでもここに飛んでくるよ」と笑顔で語り掛けていました。

ウオークラリーを終えた四年五組の女子児童(〇)は「こんなにたくさんあるとは知りませんでした。場所も覚えたり、ちゃんと逃げ込めよう」と話しました。村上康也教頭(五)は「危険が迫ったとき、近くに110番の家がなかったら、付近の大人の人に助けを求めましょう」と呼び掛けていました。

「いつでも飛んでくるのよ」と声を掛けてくれた喫茶店のような場所が現在、西宮市内に千九百八十七カ所、同校区内に六十八カ所、子どもを見守る地域の目は確実に広がっています。

駆け込み拠点 現在1987カ所

「110番の家の前。いつでも飛んでいらっしやい」
=西宮市内

P T A 役員座談会

不審者から子どもたちを守り、小中学校に通う子どもを持つ母親の皆さんに話し合ってもらいました。

山本さん うちでも、事件のあった日は家を出ないようになっています。不審者がうろついていたら怖いからですね。

「家庭ではどのように指導されていますか。」
杉本さん 娘は部活で帰りは五時半ごろ。明るいうちに、二人以上で帰るよう言っています。一人で帰らせるのは心配です。

尼谷さん 危険な目に遭ったときは、大声で助けを求めて、走って逃げなさい、と話しています。西宮市でも不審者による傷害事件が

欠かせぬ 地域との 協力体制

学校に望むことは、山本さん 防犯ビデオを設置している学校もあるようですが、それより警備員を置いてもらいたいですね。

尼谷さん 学校にはいい、門はいくつかありますが、正門以外の門は施錠して、開いている正門を中

心は警護してもらおうのいいかもですね。杉本さん 娘の中学では職員室が二階にあるのですが、一階で、かつ校門を見渡せる位置の方がいいのではないかと。不審者が入ってきた場合、対応しやすいですよ。

P T Aで、子どもたちを守るために実施していることがあれば教えてください。

山本さん 校内に入る人には、認証タグを付けてもらうようにしています。あと、近所の子を十人くらい集めて、保護者が一人付き添う集団登校を実施しています。

尼谷さん でも、P T Aだけでできることは限られています。地域の人の協力がないと。自治会や老人会に、児童の登下校時間帯は、不審者がいないかなど気を付けてもらえるよう依頼する予定です。

杉本さん 時間のあるときに、登下校中の子どもたちを見守ってやってください、と自治会に声掛けしています。

尼谷さん そうですね。地域のことをよく知っている自治会や老人会の方々に、普段見掛けない不審者を発見することもできるでしょうし、協力していただけると心強いですね。

「校門に警備員配置を」



座談会に参加した(左から)杉本さん、尼谷さん、山本さん=西宮市教委庁舎

出席者は次の皆さん(順不同)
 杉本恵子さん(四) 段上町 甲武中のP T A会長、中学二年生の長女(一八)。
 尼谷友里子さん(三〇) 学文殿町、鳴尾北小のP T A副会長、小学六年生の長男(一七)、小学三年生の長女(九)。
 山本順子さん(四七) 今津山中町、津門小のP T A副会長、小学五年生の長男(一七)、小学三年生の次男(九)。